

(2) No. 158

募集 100名(25チーム)、申込は6月30日(金)までに。

申込先 萩原56-3852、関根31-8410

坂田25-8732、石尾52-2636

(菱の実会の取纏め責任者:萩原 十四夫)

新会員紹介(会員番号381) 志村 久さん(平成17年10月15日退職)

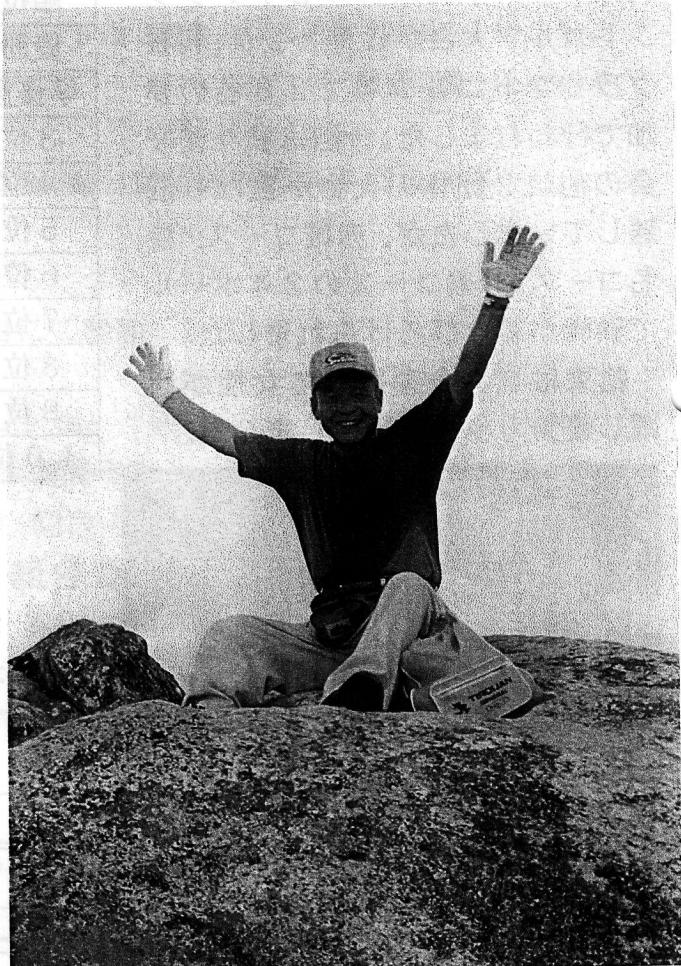
〒370-0414 太田市堀口町267-12

電話 0276-52-1356

平成17年10月15日付けで、三菱電機特機システム(株)を退職し、このたび、菱の実会に入会させていただくことになりました志村です。よろしくお願ひいたします。

昭和36年に菱電機器(株)に入社して以来、群馬に約23年、本社に14年、三菱電機特機システム(株)に8年間と約サラリーマン生活の半分を群馬で過ごしました。

退職後は、単身生活から開放されて自宅に戻り、しばらくぶりに家族とともに生活しています。これからは、趣味のハイキングや家庭菜園等でのんびりと生活していきたいと考えておりますのでよろしくご指導の程お願いいたします。



重要なお知らせ!!!

去る、4月25日行われた総会で御案内の通り、菱の実会会報“群馬菱の実会だより”の郵送料縮減の為、ホームページを閲覧されている方に対して、原則として同会報を郵送しないことに致します。具体的には、メールアドレスを登録して頂いている方には、No.158号(6月号)より、(アップロード完了のお知らせで連絡させていただいております。)

昨年のアンケート調査で、インターネット可と回答されて、アドレス未登録の方には、No.159号(7月号)からを予定しております。(但し、従来通り会報の郵送を希望される場合は、ホームページで案内のアドレスまで、その旨、連絡願います)
アドレス未登録の方、この際是非ともアドレスの登録をお願いいたします。 (事務局)

会員投稿 『同窓会(どうじょうかい)顛末記』(その1) 鳥取市 高橋正晨

世の中は地球温暖化による気象のヤクザ化、アメリカ一辺倒による政治のヤクザ化、セフティネットのない経済財政政策のヤクザ化によって、大変な状況になりつつある。

国民は永きに渡る低金利政策によって当然貰うべき利子を大銀行の救済(不良債権)に協力して来た。又、永きに渡る不正規雇用容認政策によって当然就くべき正社員職場を失いながら大企業の再生に協力して来た。
(次ページへつづく)

更に進められているのは、高齢者への各種控除の廃止による実質課税強化、医療費の引き上げによる負担増加等の高齢者虐め、所謂、姥捨山の始まりである。そして、次に来るのは、消費税を始とする各種の増税である。永きに渡る政府の失政には責任をとらないで、必ず国民のみに皺寄せされるのである。若者、主婦、高齢者、国民は痛みに耐えかねて、挫けた儘で格差社会でのたたかう者が増えている。今後、企業は賃上げではなく正規雇用を増やして、お返しをすべきである。国民は国を滅す国債を順次換金し、困り果てた政府が正しい政策に転換するよう求めるべきである。弱者を救う為にあるのが政府ではないのか？行政府、立法府、司法府の人員の半減化と給与の民間準拠・地域民間準拠はなされたのか？特別会計の縮少、天下りの廃止はなされたのか？気になる事ばかりが頭に浮かび、前置きが長くなつて申し訳ありません。

一、八頭第一中学校同窓会（昭和26年卒業第4回生）

私の生まれた鳥取県八頭郡河原町には町立中学校が一つしかないので、何故か八頭第一中学校と名付けられていた。昭和23年に入学し、26年に卒業して、55年過ぎてしまった。卒業生は3クラスで129名いたが、既に20名も他界してしまった。今迄に12回同窓会を行っているが、10回の鳥取砂丘センターでの席上、何故か私が代表幹事に指名されてしまい渋々やらざるを得なくなつた。よく聞いてみると、初回からやっていた代表幹事が幹事連の意見を無視するようになり、更迭のチャンスを窺っていたようである。席上、「鳥取県には鳥取、吉岡、鹿野、浜村、岩井、東郷、羽合、関金、三朝、皆生の10ヶ所の温泉があるので、今後は温泉巡りをしたらどうかと思います。地元の人は温泉の有難さに気付いていないような気がします。」と提案したところ、お前がやれと言うことになってしまったのである。11回は私が不慣れなため、平成16年8月16日（鳥取しゃんしゃん祭り当日）、従来からよく行っていた、湖山長者の伝説で有名で面積が日本一の池「湖山池」の辺にある「吉岡温泉（単純泉一リウマチ性疾患・痔疾・美肌）」の「レーク大樹」で開催した（出席者31名）。

同窓会とは、「どうしようかい」と頭を使うものである。なんとかして新機軸を出すため、料理には鳥取名産の「白いか」の「船盛り」を付けることにした。出席者名簿についても工夫をした。今迄は出席者のみの名簿であったが、「全員名簿」に出欠を追記したものとし、顔と氏名が分かるように「卒業写真」の上に「氏名入りの透明紙」を重ねたものを追加し、表紙には新しく発見した懐しい「校舎全景（昭和25年当時）」と「古稀の寿」の文字を入れたものを製版印刷して作成した。好評だったので、県外在住者には郵送、県内在住者には手分けをして配達すると共に、同窓生に合つて今後の参加要請を試みた。

12回は平成17年11月17日、奈良時代の書物にもその名を残す、山陰最古の湯、ひしゃくで湯をかけ、温泉につかる奇習「湯かむり」がある岩美町の「岩井温泉（カルシウム・ナトリウム硫酸塩素泉一神経痛・慢性皮ふ炎）」の「かんぽの宿鳥取岩井」で開催した（出席者30名）。今回は何と言つても11月5日解禁となつた鳥取名産「松葉がに」を食べて貰いたく、「かにづくし」をテーマとした。かにすき、かに刺し、かにみそ、かにみそ豆腐、かに天ぷら、焼きがに等である。お蔭様にて、八王子、大阪、豊岡等からの久しぶりの参加者もあり、ひたすら「かにづくし」に舌鼓を打つてもらうことが出来た。

次回から財閥の上田さんに代表幹事をバトンタッチさせて貰うこととし、肩の荷をおろすこととなつた。新しい斬新なアイディアでこの同窓会が続けられるものと確信し、今後に大いに期待している。（来月号につづく）

会員投稿 『誇れる仲間』

太田市新田木崎町 北野 雄樹

私は桐生市出身です。入社後10年位はバスと電車を乗りついで会社に通勤していました。その小学校の時の6年3組の同級生が私の誇れる仲間です。小学校卒業後、正月やお盆などに同級会を開き、一昨年先生が亡くなるまで同席して頂き続けてきました。先生の名前は稲葉（旧姓 松村）八重先生、若くて陽の暮れるまで私達と一緒にソフトボールやドッジボールをしてくれる先生でした。昨年先生のだんな様の稲葉寛一先生も亡くなられたため、子供さんも居なかつたことから、先生ご夫妻の供養を同級会で行うことにして続けています。私達も、もう65歳、一泊旅行に行けるのもあと5~6年と思い3月に川原湯温泉を計画した処23名が集まり行ってきました。小学校の時のこと、現在の家族のこと、友達や趣味のこと等など話しに花が咲き、また宴会でも歌ありダンスありで大盛況でした。話が盛り上がりこの秋にも行こうということになり“海”方面を計画しています。北朝鮮に行った友、若くて亡くなつた友、事業に成功した友、離婚した友など人生いろいろですが同級会に集まれば皆昔からの仲間で気のおけない友達。心が安まるひとときなのです。ヒョンなことから桐生タイムスの取材を受けて記事が5月6日の新聞に掲載されました。私の誇れる仲間をご紹介します。

（『亡き恩師が結ぶ縊』との見出しで5月6日の夕刊桐生タイムスに掲載されました、紙面の都合により写真を掲載しました）



会員投稿 『同窓会（どうじょうかい）顛末記』（その2） 鳥取市 高橋正晨

二、29E会（にくいいかい）同窓会（鳥工電気科昭和29年卒業）

昭和26年鳥取東高工業部電気科に入学し、29年卒業して、52年過ぎてしまった。卒業生は82名いたが、既に14名も他界してしまった。今迄に何回も同窓会を行ってはいるが、最近出来た関西29E会（25名）の活動の方が賑やかで、和やかである。一昨年、関西29E会の招きにより「倉敷での会合」に初参加してみて、吃驚仰天、嗚呼これが同窓会なのだと教えて貰つたのである。福田さんの御努力で此迄来ているのだと気付いたのである。私は29E会の世話人の一人に過ぎないが、今後何か役にたつことは何でもやろうとこの時決心させられたのである。

昨年初めに「29E会へのラブコール」と言うお願ひ文を関西29E会以外の県外在住者に発信し、関東29E会の発足を要請したのである。別途関西29E会よりの要請もあったようで、山川さんの御尽力により4月に12名で関東29E会が発足することになり、喜び勇んで久し振りに東京に行くことが出来た。この際に、愛知万博も見られたり、中部電力との電気温水器の深夜電力利用制度に尽力された、尊敬する山田さんと語り合うことも出来た。誠に充実した日々であった。山川さんの御努力で関東29E会が今後も長続きする事を願つて止まない。

一昨年の関西29E会の「倉敷での会合」で会った西村さんが「西村の宝物」としている物を見せて貰い、借りてかえった。それは、私達E3A（電気三年Aコース）が就職試験の忙しい中、苦心して作った「ルーム雑誌・卒業記念特集」『ELECTRICITY』である。誠に申訳ないが、私は、この雑誌の存在すら全く忘れていたのである。読んでみると、成程、宝物である。今は亡き石川さんが中心となって残してくれた宝物であった。何故、あの慌しい卒業期に無理をして迄発行したのか、52年後に読み直してようやく理解出来た様に思われる。この雑誌は今も私達の心の中で生きている。各中学の秀才達が電気科に集い三年間切磋琢磨した蘊蓄を印したものである。

今思えば、私達は卒業当時80%大人であった様に思われる。心の底から覚悟して、やる気になって、社会に出たような気がする。この事が文章から読み取れるのである。だからこそ、それなりの成果を上げて来たように思われる。ガリ版を手伝った私が大いに反省しなければならないのは、字が汚いと言う事である。これでは殆んどの人が読んでくれていないかも知れない、誠に申訳ない事をしたと思った。だから、ワープロで「覆刻版」を発行し、皆に再配付する事にした。早速3月に計画されている関西29E会の「京都の会」に持参し渡す事にした。又この会に参加する関東29E会の山川さんにも渡す事になっている。

関西29E会、関東29E会、鳥取の29E会本部とトライアングルが完成したので、今後の29E会の運営は楽になったと思われる。早速、秋に関西で初めての同窓会が計画されるようで、大変喜んでいる。

三、29菱会（ふくりょうかい）同期会（昭和29年三菱電機名古屋製作所入社）

三菱電機名古屋製作所は名古屋市の大曾根駅近くにあるかなり大きな製作所で、その鋳物工場が今は名古屋ドームとなっているが、私が入社した頃には既に4000人の従業員がいて、出勤時には、人々で埋めつくされる毎日であった。高卒の同期生は男女半々で計40名を越えていた。現在は男子のみで同期会を行っている。一昨年の古稀を祝う「蓼科高原」の際、私から提案をした。今迄5年置きに中部地方で開催して來たが、「古稀」を迎えた五体満足の期間はそう長いとは言えないかも知ないので、少し方向を変えて毎年行うこととし、場所もかえてみたらどうか。幸に同期生は大分、高知、倉敷、鳥取、和歌山、岐阜、大垣、津、四日市、松阪等の出身者がいるので、各地を順番にその土地の一番良い時期に開催することにしてはどうか。これが採択され、昨年の愛知万博の翌年、即ち今年から鳥取、高知の順でスタートすることになった。三菱電機に貢献し、素晴らしい成果を上げた日本各地の秀才が故郷で同期会を開催することは意義あることと思う。今年は11月中頃、松葉がにと温泉をメインに鳥取で開催することにしている。

古稀を過ぎると喜寿や傘寿迄五体満足でいることは、男性の場合そう簡単なことではないと思われる。脳トレと筋トレが必要となって来る。脳と筋が駄目になると残るのは骸骨である。思えば私達は能力と筋力で骸骨を旨く動かして人生を楽しく生きて來た訳である。この当たり前の事をはっきり認識して、歳を取る程自分を鍛えなければならない。唯、闇雲に鍛えれば良いと言う訳ではない。調子を見ながら、休養しながら、怠けないで、継続して鍛えなければならない。駄目になる程鍛えてはならないし、鍛えなくなったらもう終りである。脳力が駄目になったり、筋力が駄目になると寝たきりに繋がる事になる。

どうしようかい、どうしようかいと同窓会を計画したり、同窓会に参加して心から語り合い満足出来るうちが華である。その為にも身体を鍛えておこうではないか。